

《フィリピン》ドゥテルテ政権の閣僚・大統領府高官(上) 「友人・同郷」で固めた主要閣僚：プロフィール

ドゥテルテ政権の発足

【2016年6月30日】ロドリゴ・ドゥテルテ新大統領(71歳)がマニラ市内のマラカニアン宮殿(大統領府)で最高裁判事の立ち合いの下に就任宣誓式(任期6年：2016年-22年)。

【6月30日】レニー・ロブレド新副大統領(52歳)がマニラ首都圏ケソン市内のレセプションハウスで大統領とは別々に就任宣誓式(任期：同)。

【6月30日】マラカニアン宮殿でドゥテルテ新大統領が主宰して閣僚の就任宣誓式。式典終了後の同日午後に関閣議を開催。

【人物データ・ファイル】

◎大統領 President

ロドリゴ・ドゥテルテ Rodrigo Duterte



5月9日の総選挙(大統領選挙)で2位(マヌエル・ロハス元内務自治相)に600万票以上もの差をつけて圧勝。同島のダバオ市長を通算22年間務め、治安を劇的に改善させた実績から「就任後6カ月以内の犯罪一掃」を主要な公約に掲げたことが有権者の絶大な支持を得た。

*ミンダナオ島出身の初めての大統領。富が集中するマニラと地方の格差を特に問題視し、大企業が所属する「マカティ・ビジネス・クラブ」を公然と批判するほどの「マニラ嫌い」。アキノ前大統領陣営に所属するロブレド新副大統領に対しては就任宣誓式を別々に実施して「冷遇」し、地元の有識者やメディアから「政治の世界での礼節を台無しにする行為」と批判された。

*「犯罪一掃」の実現のために警察官はもとより民間人にまで犯罪者の実質的な「即決処刑(超法規的殺害)」を奨励する政策を推進しており、国連機関をはじめ国際的な人権団体、報道関係団体、それに「フィリピン・カトリック司教会議」などから人権侵害だとして厳しい批判を浴びている。米タイム誌の記事では「処刑人」の異名を与えられた。

*最大の政策として、憲法を改正してフィリピンを連邦制国家に移行させる構想を標榜する。「左翼」「社会主義者」であることを自ら公言し、フィリピン共産党(CPP)に近い左派勢力の活動家4人を閣僚・次官などに起用。CPPの統一戦線組織「民族民主戦線(NDF)」との和平交渉にも積極的な姿勢を示す。

*「嫌米」であることを隠さない。一方で、母方の祖母が華人ということもあるのか、中国には一定の親近感を持っている。中国語は「聞けば分かる」程度の能力があるとされる。

▼データ：【年齢】71歳(1945年3月28日生まれ)【生地】(フィリピン・コモンウェルス時代)南レイテ州マージン【政党】フィリピン民主党-国民の力(PDP-Laban)【宗教】カトリック【学歴】リセウム・オブ・ザ・フィリピン大学卒(文学士)/サン・ベダ大学法学士【経歴】弁護士/ダバオ市検察庁次席検事/同市副市長代行/【1988年】ダバオ市長(連続3期)/【98年】下院議員(1期)/【2001年】ダバオ市長(再登板：連続3期)/【10年】同市副市長(1期)/【13年5月】中間選挙 ダバオ市長(再々登板)/【16年5月】総選挙 大統領に当選、【6月30日】第16代大統領就任(一現在)
【家族】エリザベス(Elizabeth Abellana Zimmerman)氏と離婚。子供は2男2女 [詳細データ] →AMR15/06/15

◎副大統領/住宅都市開発調整評議会(HUDCC)議長

Vice President/Chairwoman of the Housing and Urban Development Coordinating Council
レニー・ロブレド Leni Robredo



5月9日の総選挙(副大統領選挙)でアキノ大統領(当時)陣営のマヌエル・ロハス大統領候補(元内務自治相)とタンドムを組んで出馬し、獲得票数で2位のフェルディナンド・マルコス(2世)下院議員(当時)を僅差で破り当選。6月30日のドゥテルテ政権発足時には、ドゥテルテ大統領から政府内でのポストを与えられず恣意的な「のけ者」扱いを受けたが、ようやく7月12日になって「住宅都市開発調整評議会(HUDCC)議長(兼任)に任命された。

*2012年6月に飛行機事故で死亡したジェシー・ロブレド元内務自治相(アキノ政権)の未亡人。汚職・不正の追放と貧困問題の解決に取り組んでいた亡夫の意思を受け継いで政界入り(下院議員)。

*子育てしながら司法試験に合格。弁護士として貧困層の人々の法律相談を長年続けてきた。

▼データ：【年齢】52歳(1964年4月23日生まれ)【生地】(ビコール地方)カマリネス・スル州ナガ【政党】自由党(LP)【宗教】カトリック【学歴】【1986年】フィリピン大学(UP：ディリマン校)卒(経済学)/サン・ベダ大学経営学修士(MBA)/【92年】(ナガ市)ヌエバ・カセレス大学法学士/【1996年】司法試験合格/【2015年】フィリピン工芸大学(PUP)名誉行政学博士【経歴】「ビコール川流域開発プログラム(BRBDP)」研究員/【1996年】公設弁護人事務所(PAO)勤務/【98年】法律支援団体「SALIGAN」(本部：ナガ市)コーディネーター(一2008年)/【12年】LPカマリネス・スル支部長/【2013年5月】中間選挙 下院議員に当選(LP：カマリネス・スル3区)/【16年5月】総選挙 副大統領に当選、【6月30日】第14代副大統領就任(一現在)、【7月12日】住宅都市開発調整評議会(HUDCC)議長(一現在)【家族】亡夫・ジェシー(Jesse Robredo)氏(福建系の華人で「林」姓)との間に3女。

■官房長官 Executive Secretary

サルバドル・メディアルデア Salvador Medialdea



弁護士・実業家。エストラダ政権時代に短期間、大統領政務補佐官を務めた。ドゥテルテ大統領とは、ダバオ市に居住していた少年期に友人関係にあり、「友人閣僚」の一人。大統領は、同(メディアルデア)氏が現在もパートナーとして籍を置いている法務法人「MABGS」のクライアントでもある。

▼データ：【年齢】64歳(1951年10月14日生まれ)【生地】マニラ【学歴】【1972年】サンファン・デレトラン大学卒(商学士：経営学)/【76年】サン・ベダ大学法学士/【77年】司法試験合格【経歴】弁護士・実業家/法務法人「ACCRA」シニアアソシエイト、同「MABGS」パートナー(一現在)などを歴任/【1998年】(エストラダ政権)生活資源開発公社(LIVECOR)総裁/【2000年7月】(エストラダ)大統領政務補佐官(一11月)/「MABGS」パートナー/【2016年6月30日】(ドゥテルテ政権)官房長官(一現在)【歴任】Manchester International Holdings社取締役/Accette Insurane社取締役【趣味】ピアノ演奏、クラシック音楽鑑賞【家族】ベティ(Betty Dizon：弁護士・保険会社社長)との間に1男。

《各省大臣》

*2016年6月30日就任宣誓式

■外相 Secretary of Foreign Affairs

ペルフェクト・ヤサイ Perfecto Yasay Jr.

弁護士。元証券取引委員会(SEC)委員長。プロテスタントの新興教派「ジーザス・イズ・ロード(Jesus is Lord)教会(JIL)」を母体とする中道左



派政党「バンゴン・ピリピナス(BPP:立ち上がりフィリピン)」の幹部。2010年5月総選挙で同党から副大統領選挙に出馬するが落選。ミンダナオ島キダバワンの生まれだが、中学・高校をダバオ市で過ごしており、「同郷閣僚」の一人といっよい。

▼データ:【年齢】69歳(1947年1月27日生まれ)【生地】(コタバト州)キダバワン【政党】バンゴン・ピリピナス党(BPP)【宗教】プロテスタント【学歴】セントラル・フィリピン大学(CPU:イロイロ市)卒(政治学)/国立フィリピン大学(UP)法学士/アテネオ大学経営学修士(MBA)/米国法廷弁護士資格【経歴】弁護士(米ニューヨーク)「Maceda Philippine News」社長/法律事務所シニア・パートナーなどを歴任/【1987年】(帰国)法律事務所コミッショナー/【93年】証券取引委員会(SEC)理事/【95年】SEC委員長/【2000年】CPU理事長・学長/【16年6月30日】(ドゥテルテ政権)外相(一現在)【家族】セシール(Cecile Joaquin)夫人(元人口委員会事務局長)との間に1男2女。

■内務自治相 Secretary of the Interior and Local Government

イスマエル・“マイク”・スエニョ Ismael “Mike” Sueno



ドゥテルテ大統領が所属する政権与党「フィリピン民主党-国民の力(PDP-Laban)」の元全国議長。元南コタバト州知事。

▼データ:【年齢】68歳【生地】(ソクサージェン地方)コタバト州(現・南コタバト州)マルベル(現・コ罗纳ダル)【政党】PDP-Laban【学歴】「Our Lady of Perpetual Help(絶えざる御助けの聖母)神学校卒(準学士:文学)/リージョナル・メイジャー神学校卒(文学士:哲学)【経歴】実業家/【1980年】コ罗纳ダル町長/【1986年】(エドサ革命後)南コタバト州知事代行(OIC)/【88年】同知事(一92年)/【97年】(ラモス政権)南部フィリピン平和開発評議会(SPCDP)諮問会議議員/【1998年】副大統領選挙に出馬するが落選/【2001年5月中間選挙】下院議員選挙に出馬(南コタバト2区)するが落選/【07年5月中間選挙】南コタバト州副知事選に出馬するが落選/【16年6月30日】(ドゥテルテ政権)内務自治相(一現在)【家族】ジョセリン(Jocelyn Bernardo Sueno)夫人。

■国防相 Secretary of National Defense

デルフィン・ロレンサーナ(退役少将) Maj.Gen.(Ret.) Delfin Lorenzana



2004年から11年間にわたって駐米大使館付き退役軍人問題担当大統領特別代表として、第2次世界大戦で米軍に参加したフィリピン人軍人・遺族に対する補償獲得や福利厚生拡大に尽力した。駐米大使館駐在武官も務めており、「訪問米軍に関する地位協定」に基づく軍事演習・訓練・支援、および対イスラム過激派「アブサヤフ(ASG)」掃討作戦での米軍事顧問団との調整などの円滑な実施・運用で重要な役割を演じた。

*ドゥテルテ大統領がダバオ市長時代に同市に駐屯する第2偵察レンジャー大隊の大隊長を務めた経歴を持つ。

▼データ:【年齢】67歳(1948年10月28日生まれ)【生地】(ソクサージェン地方)コタバト州ミッドサヤップ【軍歴】退役陸軍少将【学歴】フィリピン陸軍士官学校(PMA)卒(1973年期生)/アテネオ大学(マニラ校)経営学修士(MBA)/オーストラリア国立大学(戦略研究)、米ハーバード大学(上級国際指導者コース)、米国防務省(危機管理コース)で学ぶ【経歴】陸軍将校/第2偵察レンジャー大隊(ダバオ市)大隊長/軽機甲旅団長/【2001年】特殊作戦司令部(SOCOM)司令官/【02年】駐米大使館駐在武官/【04年】駐米大使館退役軍人問題担当大統領特別代表(一15年)/【16年6月30日】(ドゥテルテ政権)国防相(一現在)【家族】エディタ(Editha Aguilar)夫人。

■法相 Secretary of Justice

ヴィタリアーノ・アギーレ Vitaliano Aguirre II



サン・ペダ大学(マニラ市)法学部でドゥテルテ大統領と同級生であり、ダバオ市長時代のドゥテルテ氏の弁護士を務めた。「友人閣僚」の一人。ドゥテルテ大統領候補(当時)が「ダバオ・デス・スクワッド(暗殺部隊)」への関与疑惑などで候補者資格を問う法的審査に直面した際に首席弁

護人を務めた。

▼データ:【年齢】69歳(1946年10月16日生まれ)【生地】(現・マニラ首都圏)ケソン市ムラナイ【学歴】【1967年】サン・ペダ大学卒(文学士:優等)/同大学法学士(71年入学生:首席)【経歴】弁護士(法務法人共同創設者)/「アギーレ&アギーレ法律事務所」代表取締役パートナー(一2016年)/【2013年3月】(アキノ政権)クラーク開発公社(CDC)副総裁(法務担当)/【16年6月30日】(ドゥテルテ政権)法相(一現在)【兼任】アレリャーノ大学法学部教授【家族】マリッサ(Maissa)夫人との間に3男。

■財務相 Secretary of Finance

カルロス・ドミンゲス Carlos “Sonny” Dominguez III



国営銀行頭取からフィリピン航空会長、高級モビル「シャングリラ・プラザ」社長、マニラ電力(Meralco)取締役など様々な分野の国営・民間大手企業の会長・社長・役員を歴任してきた大物実業家。ダバオ市ではマルコポーロホテルを所有している。アテネオ大学(ダバオ校)付属高校ではドゥテルテ大統領の同級生であり、現在まで親友の間柄。大統領選挙でのドゥテルテ候補選対本部では「資金調達担当参謀」を務めた。コラソン・アキノ政権で天然資源相、農相を歴任しており、新政権の財務相としての資質は十分だが、基本的には「友人・同郷閣僚」。

*アキノ現政権が成し遂げた経済成長の恩恵を損なうことなく、それを国民全体に行き渡らせることを財務省の政策の基本に掲げている。

▼データ:【年齢】70歳(1945年9月16日生まれ)【生地】(フィリピン・コモンウェルス時代)サンボアンガ市【学歴】【1965年】アテネオ大学(マニラ校)卒(理学士:経済学)/【69年】同大学経営学修士(MBA)/【82年】(米)スタンフォード大学経営大学院エクゼクティブ課程修了/同大学博士【経歴】フィリピン・アイランズ銀行(BPI)入行/【1984年】BPI農業開発銀行頭取/【86年】(コラソン・アキノ政権)天然資源相/【87年】農相、国営フィリピン土地銀行(LBP)理事(兼任)/【89年】タバコ、不動産、小売り、鉱山、エネルギー関連大手数社の役員/【93年】フィリピン航空会長/【95年】「シャングリラ・プラザ」社長、「北部ミンダナオ電力」社長など大手数社の会長・社長・役員を歴任(一2016年)/【2001年】マニラ電力(Meralco)取締役(一03年)/【16年6月30日】(ドゥテルテ政権)財務相(一現在)【家族】シンシア(Cynthia “Ball” Andrews)夫人との間に3男1女。

■予算管理相 Secretary of Budget and Management

ベンジャミン・ディオクノ Benjamin Diokno



ミシラキウス大学で経済学博士号を取得したエコノミストで国立フィリピン大学(UP)経済学教授。38歳で予算管理省次官に就任した財務官僚としての経歴もある。予算管理相にはエストラダ政権でも起用されており、今回は2度目の就任となる。ドゥテルテ政権では数少ない「テクノクラート閣僚」。

*ドゥテルテ大統領の経済政策に従って、開発予算を後開発地域のピサヤ諸島とミンダナオ島に優先的に割り当てる方針を表明している。

▼データ:【年齢】68歳(1948年3月31日生まれ)【生地】(カラバルソン地方)バタンガス州タール【学歴】【1968年】国立フィリピン大学(UP:ディリマン校)卒(文学士:行政学)/【70年】同大学行政学修士/【74年】同大学経済学修士/【76年】(米)ジョンホプキンス大学修士(政治経済学)/【81年】(米)シラキウス大学博士(経済学)【経歴】経済学教授・財務官僚/【1974年】国立フィリピン大学(UP)経済学教官(のち教授)(一現在)/【86年】予算管理省次官(予算運営)(一91年)/【90年】地方水道公社(LWUA)理事長(兼任)/【91年4月】フィリピン国営石油会社(PNOC)会長・CEO(一8月)/【93年】上院議長財政顧問(一95年)/【98年】(エストラダ政権)予算管理相(一2001年)/【16年6月30日】(ドゥテルテ政権)予算管理相(一現在)【兼任】経済紙「ビジネス・ワールド」コラムニスト【家族】子供は2男1女。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)